

8月 1日～15日の国内外外国為替市場動向

	為替市況	主要経済指標など	主要発言など	為替レート		
				ドル円	ユーロ円	24H
06/08/01 (火)	東京は小動き。とくに大きな材料がなく、また夜にたくさんの要因を控えていることもあり手控えムード。欧米は米財務長官発言などからドル高でスタートするも続かず。商品相場への資金シフト思惑もあり軟調。	・7月の独失業率10.6%、同失業者数444万人 ・6月の米個人所得0.6%、同個人消費0.4%、同コアPCE価格指数0.2%、同建設支出0.3%、7月のISM製造業景気指数54.7	・福井日銀総裁「追加利上げ、年内にないとは言っていない」 ・ボートン米財務長官「強いドルは米国の国益となる」	114.60	146.28	寄付
				114.49	145.90	安値
				115.39	147.01	高値
				114.56	146.95	終値
06/08/02 (水)	東京は人民元切り上げ観測を受けて円高で寄り付き。しかし114円前半が底堅く、結局行って来い。欧米は決定打に欠け方向性乏しい。ただ米雇用統計悪化思惑などもありドル買い難い。	・豪州が政策金利を25BP引上げ ・7月のADP全米雇用報告9.9万人	・水野日銀審議委員「年内追加利上げはないとの解釈は誤り」 ・中国人民銀行「中国は人民元の柔軟性を拡大させる」	114.42	146.73	寄付
				114.21	146.41	安値
				114.89	146.95	高値
				114.67	146.63	終値
06/08/03 (木)	東京はレンジ内での揉み合い。ただ英紙報道もありボンドが対米ドル中心に強含み。欧米はボンドならびにユーロ高。予想外のBOE利上げもありボンドが大幅続伸。対照的にドルは芽えない。	・BOEとECBが政策金利をともに25BP引上げ(BOEは予想外) ・6月の米製造業受注1.2%、7月のISM非製造業景気指数54.8	・英デイリーテレグラフ「伊中銀、ドルの外準の一部をボンドに切り替え」 ・ECB総裁「さらなる金融緩和解除は必至」 ・オーストリア中銀総裁「金利は引き続き低水準」	114.56	146.57	寄付
				114.56	146.19	安値
				115.31	147.43	高値
				115.00	147.22	終値
06/08/04 (金)	東京はとくに目立った材料は聞かれないが円が芽えない。とくに高金利通貨で弱含み。欧米はドル全面安。発表された米雇用統計が失業率を含めて予想外の悪化。対円では一時113円台も。	・7月のカナダ失業率6.4%、同雇用者数変化数 5500人 ・7月の米失業率4.8%、非農業者雇用数11.3万人	・ラジャア-CEA委員長「基本的な米経済は引き続き強い」	115.18	147.44	寄付
				113.97	147.05	安値
				115.55	147.75	高値
				114.45	147.35	終値
06/08/07 (月)	東京は前週の流れからドル安でのスタート。しかし米油田の操業停止を受け原油先物が急伸。ドルも連れ高。欧米は翌日にFOMCを控え手控えムード強いなか、円が売られ易い。	・英BP社が米アラスカ州油田の一時操業停止を発表 ・6月の景気先行指数50.0%、7月の外貨準備高8719.38億ドル	・オーストリア中銀総裁「経済見通しが確認されれば一段の金融緩和解除が必要」 ・フラット米財務省報道官「財務長官が今秋、経済当局者と為替政策などについて会談予定」	114.25	147.23	寄付
				114.24	147.22	安値
				115.17	148.04	高値
				115.14	147.86	終値
06/08/08 (火)	東京は動意に乏しく115円挟みの狭いレンジ内で揉み合い。FOMC待ちで積極的な売買は見送られた。欧米はFOMCに対する失望でドル売りが先行する局面も見られたが事前にほぼ織り込まれていた感。	・8月の月例経済報告で景気の基調判断が6ヶ月連続で据え置かれる ・第2四半期実農業部門労働生産性1.1%、同単位労働コスト4.2% ・米FOMCで金利据え置き決定	・FOMC声明「ある程度のインフレリスクは継続しており、これからの指標や景気見通し次第では追加利上げが必要となる可能性もある」	115.10	147.58	寄付
				114.55	147.45	安値
				115.39	147.98	高値
				115.30	147.96	終値
06/08/09 (水)	東京は全般的に小動き。ただ発表された機械受注が大幅な伸びを示したこともあり円買い進む。欧米は円買いでスタート。ドル/円は一時114円台を見るもその後は加入での円売りから再び115円台へ。	・7月の中貿易黒字146.1億ドル ・6月の機械受注17.7% ・BOE四半期報告「インフレ見通しを5月時点の予想から引上げ」 ・6月の米卸売在庫0.8%	・中国人民銀行「国際収支を均衡に近づけるため為替政策を活用する」 ・BOE総裁「追加利上げ実施の必要性についてなんら決定していない」	115.57	147.80	寄付
				114.78	147.70	安値
				115.74	148.45	高値
				115.35	148.34	終値
06/08/10 (木)	東京は午後になり国際テロに関するニュースが伝えられるとボンドが急落。また米ドルも芽えず結果円高。欧米でも依然としてボンドは芽えず。一方米ドルは逆に持ち直しの動きも見られた円では行って来い。	・6月の経常収支1兆167億円、同貿易黒字8570億円 ・韓国が政策金利を25BP引上げ ・6月の米貿易赤字 648億ドル、対日69.8億ドル、対中197.1億ドル ・ウォールズ米財務次官が辞任へ	・英国で航空機爆破テロ計画が発覚、欧州から英国への航空機乗り入れがキャンセル 米国のテロ警戒レベルが最高の「赤」に上げられる 実行犯など20人以上が逮捕される--など関連情報続々	115.40	148.52	寄付
				114.67	147.22	安値
				115.62	148.52	高値
				115.26	147.47	終値
06/08/11 (金)	東京は発表されたGDPが予想外に悪く円売り要因に。緩やかながら円全面安の様相。欧米は発表された小売売上高が良好だったことでドル買い進む。東京では超えられなかった116円台へ。	・6月の鉱工業生産確報2.1%、第2四半期GDP0.2% ・8月の日銀月報は景気の判断据え置き ・7月の米小売売上高1.4%、6月の米企業在庫0.8%	・日銀総裁「年内の利上げ、否定できないが示唆も出来ない」 ・英内相「英国のテロ警戒水準は依然5段階で最高の危機的水準にある」	115.38	147.59	寄付
				115.23	147.28	安値
				116.45	148.33	高値
				116.30	147.99	終値
06/08/14 (月)	東京はお盆ということで市場参加者少なく商い手控えムード。ドル/円はレンジ相場に。欧米はそれほど大きい動意のないなか円が芽えない。靖国問題が円売り材料との話も。	・第2四半期ユーロ圏GDP0.9% ・第2四半期独GDP0.9% ・小泉首相の15日靖国神社参拝がほぼ決定		116.22	148.04	寄付
				116.17	147.95	安値
				116.75	148.55	高値
				116.72	148.40	終値
06/08/15 (火)	東京は116円台でなかなか激しい乱高下。商いが薄く多少のオーダーでも上下のぶれが激しい。欧米は発表されたPPIのコア指数がマックスに落ち込んだことを受けてドル売り進む。大幅安推移。	・第3次産業活動指数 0.6% ・小泉首相が靖国神社を参拝 ・7月の米PPIは0.1%、6月の対米証券投資751億ドル、8月のNY連銀製造業景気指数10.3		116.54	148.27	寄付
				115.85	148.04	安値
				116.73	148.62	高値
				116.13	148.47	終値

* ご質問などはEメールにてお願い致します。アドレス info@fx-newsletter.com まで